



大阪科学・大学記者クラブ 各位

公立大学法人大阪市立大学
大学広報室

2012年ノーベル生理学・医学賞 山中伸弥教授 受賞おめでとうございます

大阪市立大学大学院医学研究科を修了された山中伸弥京都大学教授が 2012 年ノーベル生理学・医学賞を受賞されました。山中先生は平成元（1989）年4月に本学大学院医学研究科に入学されて医学博士の学位を取得され、大学院修了後も平成8（1996）年10月より約3年間、医学部薬理学教室において教鞭をとっていただきました。本学関係者からのお祝いのコメントは以下の通りです。

■大阪市立大学 理事長兼学長 にしざわ よしき 西澤 良記

この度のノーベル生理学・医学賞のご受賞、誠におめでとうございます。山中先生の長年にわたる優れたご研究の成果が世界的に評価され、ノーベル生理学・医学賞を受賞されましたこと、心からお祝いを申し上げます。

今回の山中先生の受賞は、平成20年にノーベル物理学賞を受賞された本学特別栄誉教授の南部陽一郎先生に続くものとして、とりわけ本学の学生や若い研究者にとっても励みになるものと嬉しく思っています。今後のさらなるご活躍を心から祈念しております。

■特命副学長・医学研究科 分子病態薬理学 教授 いわお ひろし 岩尾 洋

山中教授が大阪市立大学大学院薬理学教室の助手として勤務していた当時の上司

ノーベル賞受賞おめでとうございます。分化した細胞を人工的に元に戻すことができるという医学の常識を覆す研究成果が評価されたと思います。今後さらにこの方法を利用した医学・医療方面への応用が非常に期待されます。

1993年にまるごとの動物を使った *in vivo* の素晴らしい循環薬理学分野の研究成果を挙げて大阪市立大学大学院医学研究科博士課程を修了後に、米国 Gladstone Institute of Cardiovascular disease の Thomas L. Innerarity 教授の下で今まで経験したことがなかった分子生物学的手法を使って遺伝子改変動物を利用して動脈硬化の研究をされました。この時から ES 細胞との付き合いが始まったのでしょうか。1996年1月1日より日本学術振興会特別研究員に採用され、1996年10月から再び大阪市立大学医学部薬理学教室に赴任して、研究環境を一から作り上げるところから出発し、留学中に培った色々な経験と、その際に学んだ VW (vision and hard work) を基にして頑張っていました。Vision 作りに非常に苦しんでいたのを思い出します。1999年12月に奈良先端科学技術大学院大学の助教授として一家を構えるチャンスに恵まれる頃には長い苦しいトンネルを抜け、新しい方向に向かって精力的に、スマートに研究を進めておられました。

また、大阪市立大学の学部学生と大学院学生に対して、VW を心がければ夢のような研究が彼らにとって夢ではなく、彼らにも手の届くことを実際に示して大変大きな希望を与え元気づけて

いただきありがとうございます。

ようやく新しい分野が切り開かれていく時ですから未来の医学・医療に向かって益々のご活躍を期待しております。

■医学研究科 薬効安全性学 教授 ^{みうら}三浦 ^{かつゆき}克之

山中教授が大学院生として医学研究科に在籍していた当時の指導教官

ノーベル賞受賞おめでとう。研究の成果のすばらしさは言うまでもないですが、彼は人間的にも本当に優れた仲間であり、研究者です。ともあれ山中先生の発見が臨床の場に応用される日が早くやってくることを祈っています。

昨今、臨床研修の義務化以来、研究とりわけ基礎研究を目指す医学部卒業生が激減している中で、彼の背中を追って研究を目指す若手が増えてくることを期待しています。

(学生時代のエピソードとしては)

以前より整形外科から大学院生が何人も来られていたのですが、山中君もその一人でした。元学長の山本研二郎先生の最後の弟子です。私どもが当時行っていた研究に関連した課題である血小板活性化因子の循環作用機序を明らかにすることが彼の研究のスタートでした。基本的には生きた動物を使った循環の実験とそれらから得られた血液サンプルの成分測定といった研究手法だったのですが、当初から彼の優秀さは目を見張るものがあって、私たちが考えた仮説に対する検証法を極めて論理的に考え出し、かつ得られた結果を踏まえてさらに新しい作業仮説と、それを証明する実験をうまく組み立てるといった能力は早いうちから身につけていました。学位論文そのものはレフリーとのやり取りで結構苦勞したのですが、その間にも追加実験や、研究成果から派生した研究テーマをうまくこなして大学院時代に筆頭著者で4報も論文を書いています。結構、同時にいくつもの仕事をうまくこなす能力があったのだと思います。

人柄も非常にさわやかで、誰にも好かれるタイプでした。学生時代は柔道、ラグビー、そして院生時代も大学に来る前に大阪城公園をランニングしてくる様なスポーツマンで、バイアスロンやトライアスロンにもチャレンジしていたようです。また、彼は非常に切り替えのいい人間でして、夜を徹して仕事をするタイプではなく、適当な時間になるとさっと帰りますし、効率よく時間を使っていたと思います。

留学から帰ってからは向こうでの研究の続きで NAT1 遺伝子のノックアウトを検討したのですが、胚性致死で生まれてこなかったわけです。たいていの人はこの場合ギブアップするのだらうと思うのですが、彼のすごいところは、それを個体発生に絡めて仕事を続けていったことだと思います。

以上

<添付資料>

- ・山中伸弥教授 略歴
- ・関係者 略歴

【本件に関する問合せ先】

大阪市立大学 大学広報室 担当：小澤・豊田

TEL：06-6605-3570 FAX：06-6605-3572 E-mail：t-koho@ado.osaka-cu.ac.jp

<添付資料>

山中伸弥教授 略歴

山中 伸弥 (やまなか しんや) 昭和 37 年 9 月 4 日生 満 50 歳

昭和 62 年 3 月 神戸大学医学部卒業
昭和 62 年 4 月 大阪市立大学医学部整形外科学教室 入局
国立大阪病院研修医 (整形外科)
平成 元年 4 月 大阪市立大学大学院医学研究科博士課程 (薬理学専攻)
平成 5 年 3 月 同上修了 (医学博士)
平成 5 年 4 月 カリフォルニア大学サンフランシスコ校 (UCSF)
グラッドストーン研究所 (Gladstone Institute) 研究所 博士研究員
平成 8 年 1 月 学術振興会特別研究員
10 月 大阪市立大学医学部助手 (薬理学)
平成 11 年 11 月 大阪市立大学 退職

■関係者略歴

西澤 良記（にしざわ よしき） 満 67 歳

昭和 50 年 3 月 大阪市立大学大学院医学研究科内科系専攻内科学 2 課程修了
昭和 50 年 9 月 カリフォルニア州立大学ロサンゼルス校医学部内分泌部
昭和 54 年 4 月 大阪市立大学助手
昭和 61 年 4 月 大阪市立大学講師
平成 元年 4 月 大阪市立大学助教授
平成 11 年 5 月 大阪市立大学教授
平成 12 年 4 月 大阪市立大学大学院教授
平成 14 年 4 月 大阪市立大学医学部附属病院副院長
平成 18 年 4 月 大阪市立大学大学院医学研究科長、医学部長
平成 19 年 8 月～ 米国トーマスジェファーソン大学客員教授
平成 22 年 4 月 大阪市立大学理事長兼学長

岩尾 洋（いわお ひろし） 満 64 歳

昭和 53 年 3 月 大阪市立大学大学院医学研究科修了
昭和 53 年 4 月 ミシガン州立大学薬理学毒物学教室 リサーチ・アソシエイト
昭和 55 年 4 月 大阪市立大学医学部助手
昭和 57 年 10 月 大阪市立大学医学部講師
昭和 60 年 3 月 香川医科大学医学部助教授
平成 4 年 10 月 大阪市立大学医学部教授
平成 13 年 4 月 大阪市立大学大学院医学研究科教授
平成 22 年 4 月 大阪市立大学特命副学長

三浦 克之（みうら かつゆき） 満 59 歳

昭和 58 年 3 月 大阪市立大学大学院医学研究科修了
昭和 58 年 4 月 大阪市立大学医学研究科研究生
昭和 58 年 5 月 スミス・クライン・アンド・フレンチ研究所 研究員
昭和 60 年 10 月 大阪市立大学医学部助手
平成 2 年 4 月 大阪市立大学医学部講師
平成 8 年 10 月 大阪市立大学医学部助教授
平成 13 年 4 月 大阪市立大学大学院医学研究科助教授
平成 13 年 7 月 大阪市立大学大学院医学研究科教授
平成 22 年 4 月 学生担当部長、教育研究評議員（～平成 24 年 3 月）